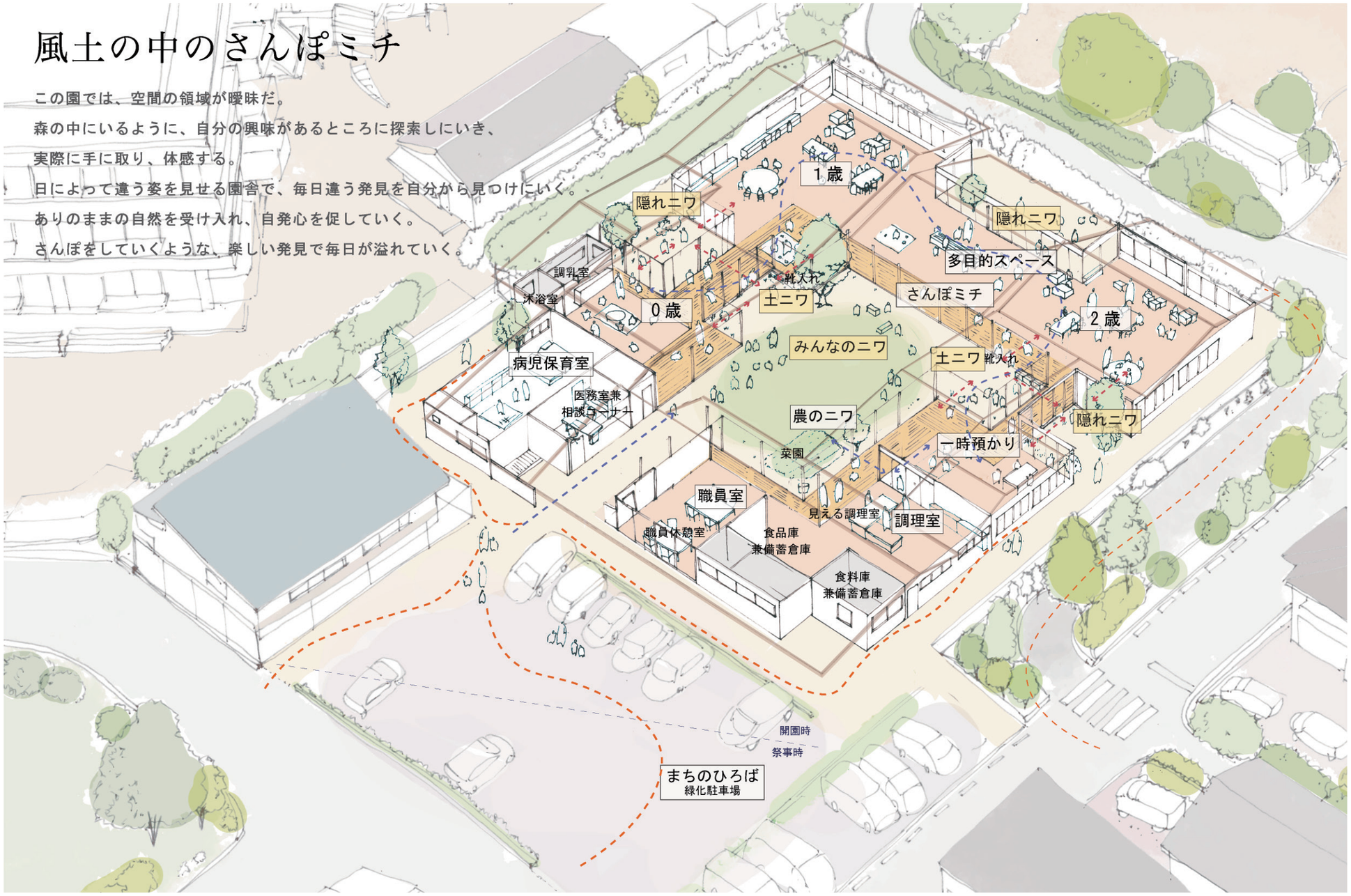
風土の中のさんぽミチ

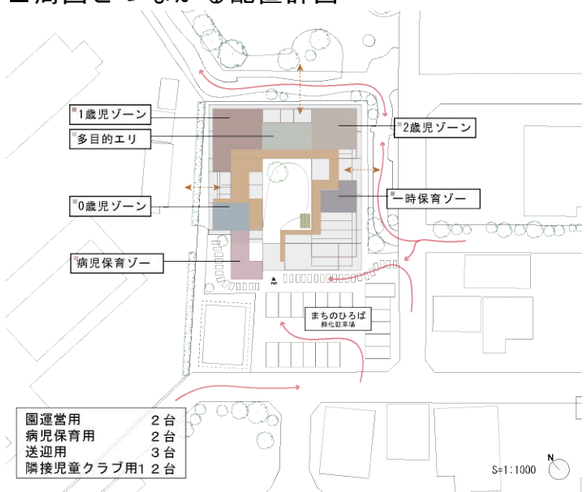
この園では、空間の領域が曖昧だ。
森の中にいるように、自分の興味があるところに探索しにいき、
実際に手に取り、体感する。
日によって違う姿を見せる園舎で、毎日違う発見を自分から見つけにいく。
ありのままの自然を受け入れ、自発心を促していく。
さんぽをしていくような、楽しい発見で毎日が溢れていく。



■森のなかを歩くように探索心を擽る園舎

みんなのニワ：開放感が感じられ、内部を一望できるニワを中心に配置。エントランスへのアプローチを歩くと、視線が抜け、園舎の賑やかな様子が地域に滲み出る。
土ニワ：保育室への玄関口とニワの間に「土ニワ」を設けることで、屋内外の境界を曖昧にする。屋外遊びの時間が少ない0-2歳児が屋内遊びでも外で遊ぶような場所とすることで雨の日も遊びの範囲が広がる。
隠れニワ：大きな中心のニワ以外に裏のニワを設けることで子どもが自由に探索しお気に入りの場所を見つけることができる。
農のニワ：ニワでは野菜を育てることで食への関心を育てる。さんぽミチと調理室を隣接させることで日常的に五感で感じられるような配置とする。
さんぽミチ：部屋と部屋を緩やかにつなぐ縁側が散策路のようになり、子どもは部屋とニワを散歩をするかのように建物内を歩く。

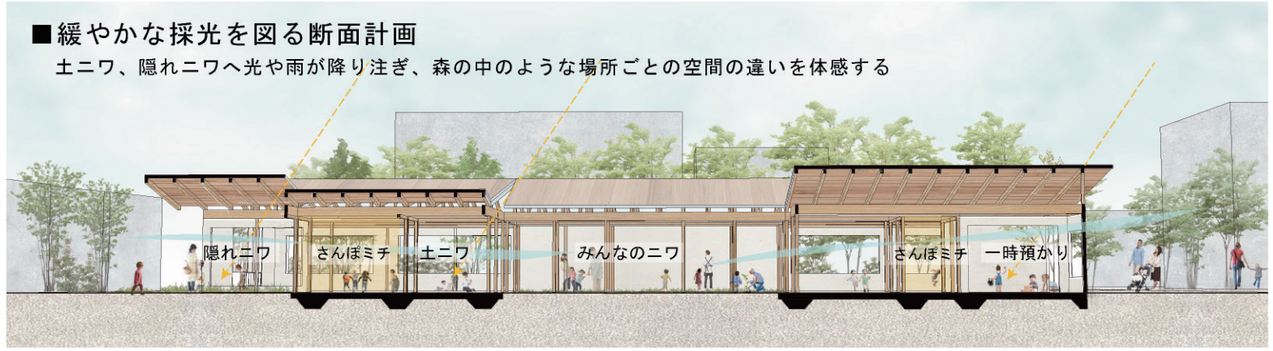
■周囲とつながる配置計画



既存の遊歩道や小学校、公園と緩やかにつながるようなニワの計画とし、保育室はオープンにしすぎず街と適度な距離を保つ。駐車場部分は日常使いだけでなくイベントなどに利用でき周囲と一体的に利用することを計画する。園の出入り口は南側に統一し、公園や遊歩道との接点は、ゆるやかに気配が感じ取れる関係とし、調理室などへのスムーズな動線を確保した。

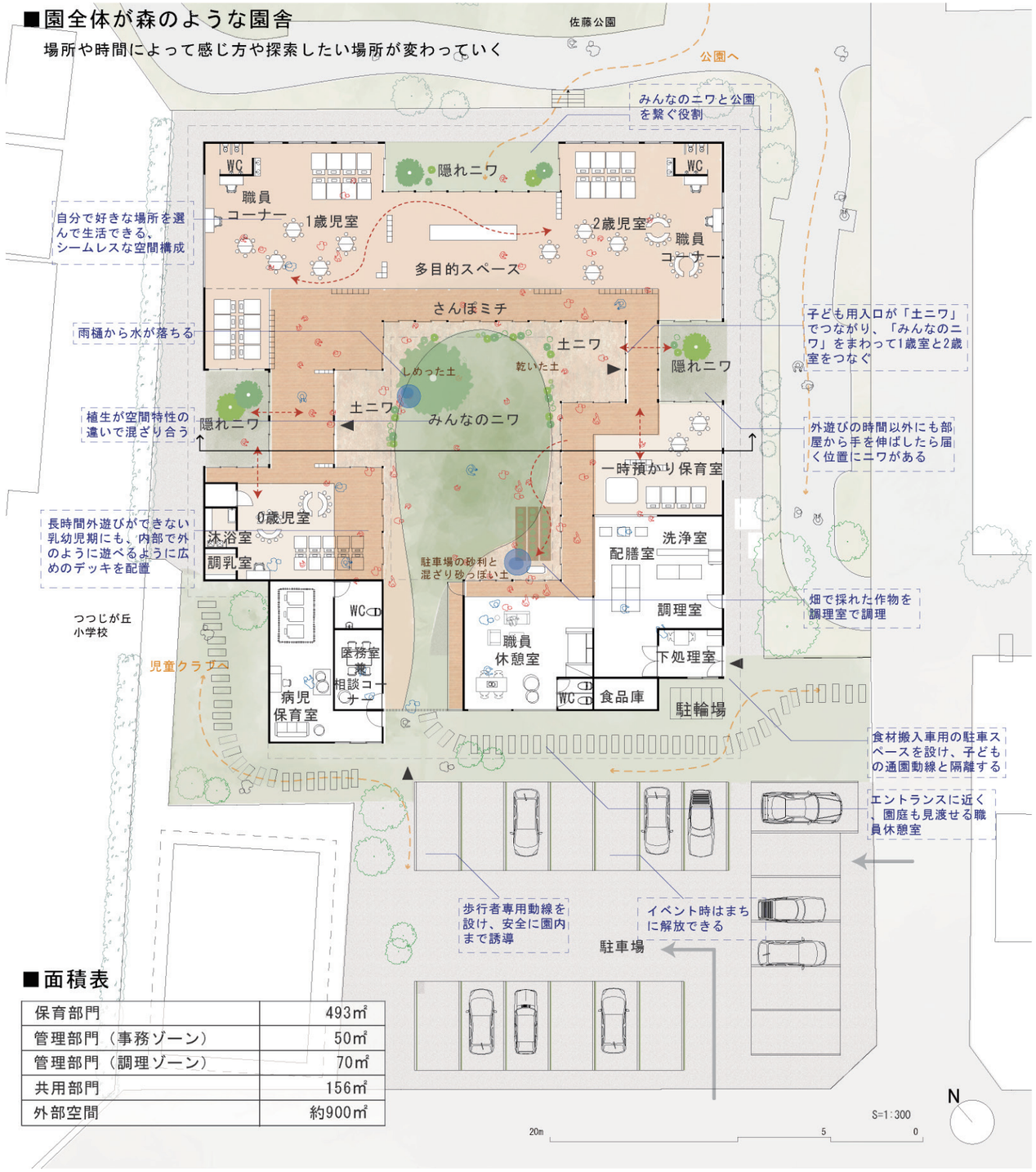
■緩やかな採光を図る断面計画

土ニワ、隠れニワへ光や雨が降り注ぎ、森の中のような場所ごとの空間の違いを体感する



■園全体が森のような園舎

場所や時間によって感じ方や探索したい場所が変わっていく

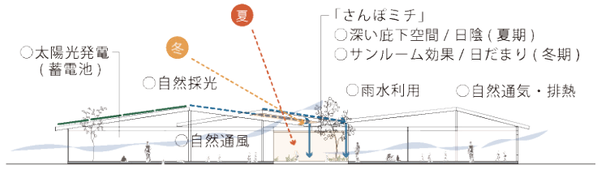


■面積表

保育部門	493㎡
管理部門（事務ゾーン）	50㎡
管理部門（調理ゾーン）	70㎡
共用部門	156㎡
外部空間	約900㎡

■豊橋の風土に根ざした環境計画

豊橋の豊かな自然・風土を積極的に取り入れた環境計画とする。「さんぽミチ」は夏季には建具を開け放して自然風を室内に呼び込み、冬季はサンルームとなって室内を温める。

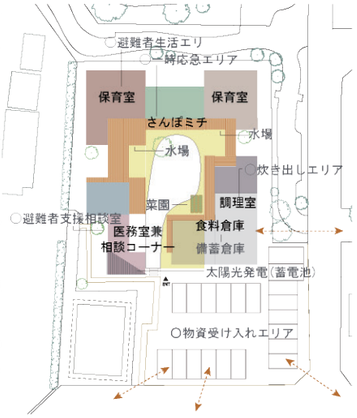


■本物の素材に触れる

免疫力の低い小さな子どもに直接触れる部分には、自然素材を使用する。
化学物質の発生リスクが少なく、アレルギー発生を防ぐ。

■備えにつながる防災計画

備蓄と防災設備を備え、災害時に地域の拠点となるような計画とする。
「さんぽミチ」の庇下が一時応急エリアとなり、有効に機能する。
菜園からの食材や水場など、日常での遊びや育成、イベントでの使用が防災訓練や備えとなるようにすることで、地域の防災意識を高める。
非常時は、北側の佐藤公園や小学校とも連携をとることで地域全体の意識を高める。



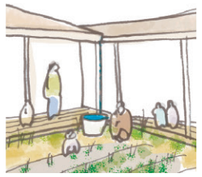
■自発的な探索と学びを広げる日常の居場所

□半屋外の隠れニワでは雨が屋根の隙間から降り注ぐ

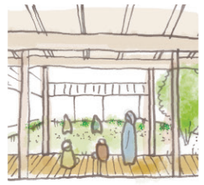
□奥行きのあるゆったりとした縁側がさんぽミチとなる

□お気に入りの場所を探せる保育室

□木漏れ日の落ちる広々としたさんぽミチでお昼寝



□溜まった水をそのまま畑に使うことができる



□ニワ全体を見渡せるひとつづきのさんぽミチ